

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2024年4月22日(月)～28日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまを食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

4月22日(月)

今日の聖書日課：出エジプト 16:1～12

「わたしはイスラエルの子らの不平を聞いた。彼らに告げよ。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りる。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であることを知る。』」

出エジプト 16:12

「水がない」の次は「パンがない」。民の不平は続きます。彼らはモーセに不平を言いました(2)。しかしそれは主に対する不平だったのです。それにしても主が「わたしはイスラエルの子らの不平を聞いた」と言うのを聞くのは恐ろしいことだと思います。思いませんか？その続きは「滅ぼされる」となりそうなところ。しかしなんと主は、不平を聞いたその後、肉とパンを与えると約束されたのです。ここには必然的に、罪の赦しが含まれています。そしてその赦しの向こうに主は彼らの必要を満たされるのです。なんとという謙遜！私たちの信じる神さまはこんなお方なのです。

4月23日(火)

今日の聖書日課：出エジプト 16:13～36

イスラエルの子らはこれを見て、「これは何だろう」と言い合った。それが何なのかを知らなかったからであった。モーセは彼らに言った。「これは主があなたがたに食物として下さったパンだ。」

出エジプト 16:15

「これは何だろう」。ヘブル語で「マーン・フー」。ここから「マナ」ということばが出てきました。そうです。マナ。それは天からのパン。パンは本来、人間が作るもの。しかしこのパンは人間が作るのではなく、主が天から降らせたもの。「イスラエルの子らは、人が住んでいる土地に来るまで、40年の間マナを食べた。彼らはカナン地の境に来るまでマナを食べた。」(35)。40年間、イスラエルの民は神がくださるパンを食べて生き続けたのです。イエスは言われました「わたしはいのちのパンです。」(ヨハネ 6:48)。それは天から下って来たパン(ヨハネ 6:50)。新約の時代に生きる私たちはこのいのちのパンであるイエス・キリストによって、そのみことばによって生き続けるのです。このいのちのパンが「ブレッド・オブ・ライフ」なのです。今日も、これからも。

イエス・キリストさまを今日も味わいましょう。

4月24日（水）

今日の聖書日課：出エジプト 17：1～16

モーセが手を高く上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を下ろすとアマレクが優勢になった。

出エジプト 17：11

エジプトを脱出してから初めての戦い。イスラエルはアマレクと戦いました。実際に剣を持って戦ったのはヨシュアでした。しかしこのとき、もう一つの戦いがあったのです。それは丘の上で行われた戦いでした。モーセが手を高く上げる。それは祈りのこと。モーセの祈りが続くとイスラエルは優勢になりました。その手を上げ続けることが難しくなり手が下りてくるとアマレクが優勢になる。だから、モーセの手が重くなったとき、アロンとフルはモーセが座れるほどの石を取り、モーセに座らせ、二人はモーセの両方の手をそれぞれ一人ずつ支えました。しっかり上げ続けられたモーセの手。すると「ヨシュアは、アマレクとその民を剣の刃で討ち破った」のです（13）。

祈りの手。信じ続ける手。その手を上げ続けることが何よりも大切です。それは一人きりの戦いではなく、ともに協力して行う、祈りの戦いなのです。

4月25日（木）

今日の聖書日課：出エジプト 18：1～27

あなたはまた、民全体の中から、神を恐れる、力のある人たち、不正の利を憎む誠実な人たちを見つけ、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として民の上に立てなさい。

出エジプト 18：21

モーセのしゅうとイテロのモーセに対する助言。モーセ一人が民をさばくのではなく、このように人数ごとにリーダーを立てよ、と。その際、大切なのはそれらのリーダーは「神を恐れる、力のある人たち」。単に力がある人ではありません。神を恐れる人です。神を認め、神を信頼する人。

私たちの教会にも複数のリーダーがいます。牧師をはじめとして、それらのリーダーたちが、今日も神を恐れ、神に信頼して歩むことができるよう、お祈りしましょう。

4月26日（金）

今日の聖書日課：詩篇 49：1～20

しかし、神は私のたましいを贖い出し よみの手から 私を奪い返してください。 セラ

詩篇 49：15

「わざわざの日々」（5）。わざわざが降りかかっていると思えるようなとき、実際、敵の悪意が自分を取り囲むとき。そのときこそ、信仰が大事になってきます。神は私のたましい（私そのもの）を贖い出してください。神が私を買って所有してくださるのです。代価を払って。「よみ」と表現される絶望の中から、神が私を奪い返されるのです。

4月27日（土）

今日の聖書日課：詩篇 50：1～23

「苦難の日に わたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出し あなたはわたしをあがめる。」

詩篇 50：15

苦しい時の神頼み。調子いいですか？いや、それでいいのです。苦しい時に神を呼び求めなくてどうするのですか？！

4月28日（日） 歓迎礼拝：詩篇 51：1～19「砕かれ心」

罪の中にいたダビデの祈りを聞きましょう。神が受け入れられるのは、砕かれた心です。